

2015年2月9日

No. 00002

Subject : タイ・インラック政権崩壊の背景

Category : タイ、政治

No. of Pages : 2

本レポートのご利用にあたってはページ下段にある注意事項をお読みになり、ご理解いただいた上でお願いします。

2011年8月8日に誕生したタイで初めての女性首相インラック・チナワットの率いるインラック政権は2013年10月ごろから不安定になり、2014年5月7日に憲法裁判所の判決により失職。その後タイは戒厳令が発令され、5月22日にはクーデター勃発。プラユット陸軍司令官が2014年8月25日に暫定首相に就任した。タイのクーデターは未遂も含めて19回目とも言われており、同国の政治の混乱を収めるひとつの手段として機能しているようにも見える。

その後2015年1月23日にインラック前首相の弾劾が成立し公民権が5年間停止となった。事実上予定されている総選挙への出馬権はなくなった。これまでの事実関係をまとめた。

【ことのはじまり】

2013年11月1日、現在も海外逃亡中の元タクシン首相も含む恩赦法案が前インラック政権下の下院で可決したことがきっかけで反政府デモ活動が激化したのが表面上のきっかけだが、その根底には人口の約6割を占める農村部貧困地帯の指示を得ているタクシン派と、軍および旧来からの財閥を中心とした反タクシン派との政権をめぐる攻防がある。

タクシン派は選挙では勝っても、何度も反タクシン派により失脚させられている。

【前インラック首相失職から現在までの主な経緯】

	氏名
2013年11月1日	恩赦法案を下院が可決。対象にタクシン元首相も含む。反政府デモが激化
2014年1月13日	反政府デモ隊が「バンコク封鎖」で主要道路を占拠
2014年2月2日	総選挙実施。デモ隊の妨害を受け各地で投票中止
2014年5月7日	憲法裁判所が判決によりインラック首相が失職
2014年5月20日	軍が全土に戒厳令を発令
2014年5月22日	クーデターにより軍主導の国家平和秩序評議会が全権を掌握。プラユット陸軍司令官が議長に
2014年5月30日	プラユット氏が民政移管に向けた3段階の工程表を発表。
2014年7月22日	暫定憲法を公布
2014年8月21日	立法議会がプラユット氏を暫定首相に選出
2014年8月30日	プミポン国王が暫定内閣の閣僚名簿を承認
2015年1月23日	立法議会がインラック前首相の弾劾を決定。5年間の公民権停止（事実上の政治活動禁止）

【 タイ政治と国王 】

タイは「国王を元首とする民主主義」という独自の統治形態を長年にわたり採用している。

伝統的に王家に対して崇敬を払うように国民は教えられてきており、現国王のプーミポン・アドゥンラヤデート国王（ラーマ9世）も、その人柄と高い見識で国民からの人気が非常に高いため国王の発言は影響力が強い。

プーミポン国王は1946年6月9日の在位。現在87歳と高齢なこともあり、影響力が弱まってきたとも言われているが、国民からの信頼の厚い国王の発言をないがしろにして国を治めることは難しい。

【3段階の行程】

第一段階

できるだけ早く、2~3カ月の間で、国民和解を達成する。加えて治安維持に全力を挙げる。全国に改革のための国民和解センターを設立、和解の基礎を作る。また第二段階への移行のため改革委員会の設立を行う。

第二段階

暫定憲法を発布する。立法議会を設置し、暫定首相を選出、内閣を任命する。また対立を解消するために改革評議会が設置される。それらは今後の状況や皆の協力具合によるが、約1年間かかる。

第三段階

民主主義制度に基づき総選挙が行われる。

注：本レポートは公表されている情報を中心にまとめたものであり、基礎的な情報として取り扱っていただくことを目的としてご用意しております。内容についての正確性については最大限の注意を払っておりますが、たとえ記載事項の間違い等でご利用者が損害を被ったとしても、当社はそれを補償するものではありません。あくまでもご利用者ご自身の責任においてご活用ください。



【「コメの高値買い上げ制度」（「コメ担保融資制度」）を巡る動き】

2011年8月のインラック政権発足直後に導入したコメを事実上実勢価格より5割程度高い価格で買い上げる制度。タクシン派の支持基盤である地方農家の所得を増やす効果があったが、バラマキ政策との批判が当初よりあった。

国家汚職防止委員会（NACC）や会計検査院は制度の導入時から巨額の損失や不正が生じる恐れがあると警告しており、タイ財務省によるとこの政策で5180億バーツ（約1兆9千億円）の損失が生じたとしている。

2015年1月、タイ国家立法会議によりインラック前首相の弾劾手続きが開始された。

インラック前首相は最終陳述で、NACCの主張する5千億バーツ規模の損害発生は事実と反するうえ、調査の過程で自身が申請した証言者を大幅に減らされるなど公正さを欠いたと主張。また、クーデターにより旧憲法は廃止されているので、NACCによる告発や弾劾審議自体に法的根拠がないとも主張したが、同会議は、この政策により国に多額の損害を与えたとして、2015年1月23日にインラック前首相の弾劾を決めた。結果、5年間の公民権停止となり、政治活動が禁止された。

【タクシン・チナワット元首相】

携帯電話事業で財をなした同氏は1998年に愛国党を創設。2001年に首相に就任。2005年の総選挙では愛国党が圧勝し、タイ初の単独政権を樹立。

タイの国民の半数は農民で、特に東北部農村地帯に貧困が多い。タクシン氏は農村振興策、貧困層向け施策などで、人口の約6割を占める北部農民層と貧困層から大きな支持を得た。

そのため選挙すればタクシン派が勝利するが、軍、国王、旧来からの財界人などの支配層を敵にしており、タクシン氏はじめタクシン派はその都度、支配層から力によってねじ伏せられてきている。

支持母体の愛国党、人民の力党も、最高裁により解党されている。

【インラック・チナワット前首相】

インラック前首相はタクシン元首相の妹。タイ史上初の女性の首相タイ貢献党。義兄のソムチャーイ・ウォンサワットが第34代首相。2011年の就任時は、「タクシン元首相の操り人形」と皮肉られたが、その後は経済の好調もあり、支持率は高い水準を維持していた。

【近年の首相】

	在職期間	首相指名	所属政党	備考
第31代	2001年2月9日 ～2006年9月19日	タクシン・チナワット	愛国党	※軍事クーデターにより失脚
第32代	2006年10月1日 ～2008年1月29日	スラユット・チュラーノン	無所属 (軍人)	
第33代	2008年1月29日 ～2008年11月9日	サマック・ストラウエート	人民の力党	※テレビ出演を巡るスキャンダルで辞任
第34代	2008年11月17日 ～2008年12月2日	ソムチャーイ・ウォンサワット	人民の力党	タクシンの義弟 ※選挙違反を理由に解党命令で失脚
第35代	2008年12月15日 ～2011年8月5日	アビシット・ウェーチャチャーワ	民主党	
第36代	2011年8月5日 ～2014年5月7日	インラック・チナワット	タイ貢献党	タクシンの妹 ※軍事クーデターにより失脚
	2014年5月22日 ～現在	ブラユット・チャンオチャ	陸軍司令官	

注：第31代、33代、34代、36代首相は「タクシン派」

以上

注：本レポートは公表されている情報を中心にまとめたものであり、基礎的な情報として取り扱っていただくことを目的としてご用意しております。内容についての正確性については最大限の注意を払っておりますが、たとえ記載事項の間違ひ等でご利用者が損害を被ったとしても、当社はそれを補償するものではありません。あくまでもご利用者ご自身の責任においてご活用ください。

